

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の意思を尊重し、その人らしい生活ができる環境づくりを目指し、理念、自戒、職員行動訓などを掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念に掲げられた「長寿」を実現させるために、職員間で日々意見交換を行いケアの質の確保に努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。自治会長、民生委員、御家族代表者に参加して頂き地域密着型サービスとしての理念を理解していただき、その都度、地域の方との交流方法など話し合っている。玄関には理念を掲示している。	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	敷地内には、池や東屋があつたりミニチュアホースを飼育している。その為、気軽に近所の方が頻繁に訪れている。利用者が散歩など外へ出られると、挨拶や会話をする機会もできている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りには民家が殆ど無く、隣近所との日常的なつきあい、ということは難しい面もあるが、運営推進会議に自治会長、民生委員、利用者家族の代表者に参加していただき、理解を深める方法を話し合っている。小・中学校との交流が行われている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>今回の自己、外部評価を照らし合わせ、具体的な改善点を見つけて評価を活かしていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>まだ、十分には活かしかけていない為、より多くの意見や情報をいただき、活かしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>研修会や勉強会などに参加し、学んでいきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>不十分な点もあるので研修会等に参加し法律なども理解していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を用い詳細説明をゆっくり行っている。説明後は不安や疑問点を聞き出し、ご理解いただけるまで説明している。今までトラブル等はないが、今後も注意を払っていきたい。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話しやすい雰囲気作りをし、何気ない会話から苦情を聞きだし、その都度対策を行っている。また、利用者には運営推進会議に参加していただき、外部の方を交えてお話を伺うこともある。玄関に目安箱を設置している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月一度はホームに来ていただき、その際に現在状況と今後の予定や相談等を行っている。金銭管理は、現金出納にて毎月報告を行っている。体調等不安定な利用者の家族へは電話などで細かな報告、相談を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前述同様、直接話しを伺う場を設けており、その際出た話をまとめ、職員とも相談しながら運営に反映させている。玄関に目安箱を設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議や毎朝の申し送りで業務の問題点や意見、提案を聞き運営に反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者が家族との外出の予定があるときや時間の決まった定期受診の時等は、職員の勤務時間を調節したり、業務の予定を早めたりしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が混乱しないように徐々に説明していくなどの配慮をおこなっている。</p>	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>同法人内やグループホーム内に研修広報の掲示をしている。必要に応じて参加を促し、その際の勤務調整は随時行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>先日、同業者から交流のお誘いを受けたが行くことができなかった。管理者や職員は他グループホームの職員との交流や情報を得る機会があり、質の向上へは繋がっているが、定期的な交流、ネットワーク作りにまでは至っていない。今後検討していきたい。</p>	<p>○</p> <p>交流会やグループホーム協会などの活動に参加し、ネットワーク作りをし、更なる質の向上に繋がっていきたい。あしかが介護支援専門員連絡会には加入し講習等参加している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日々、朝の申し送りや会議、会話等で意見、希望、提案等を聞き早めに検討、対応しようとしている。申し送り時には休憩もはさみ“ちょっと一息コーヒータイム”もある。不定期ではあるが交流会なども行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に二回職員の自己評価を行い、面接や話し合いの場を設けて各自の向上心理解に努めている。意見や希望が取り入れられた環境になるよう、日々心掛けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間ををかけて面会を行い、お互いリラックスした状態で話を伺いアセスメントしている。本人の立場になって理解を深めるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくり話を伺える場を作り、困っていること、希望していること等をアセスメントし、相手の立場になって受けとめるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の詳細状況を聞き出し、まずはアセスメントをしている。出てきた要望に対しどんな支援が必要であるか見極め、グループホームの支援内容を説明している。必要と考えられる他支援の情報提供も行い対応をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時、家族と相談のもとで利用者の状況により、外泊や外出を繰り返して徐々にグループホームでの生活に慣れていただけるよう支援している。2階には家族が宿泊できる設備もあるので紹介をしている。	○
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみや食器拭き、掃除などを一緒にして下さる方はいるが、極一部である。出来ない方にはレクリエーションで共に楽しんでいただき向き合う時間が多くもてるよう工夫している。	○
			短期利用（ショートステイ）の指定も計画していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を中心として各種行事への協力、参加を促している。本人に変化などあった時は、家族に報告し一緒に考えている。ケアプランには家族の支援も盛り込み一緒に支えあっていくような計画を立てている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族において何が一番最適な関係かを判断、確認し、より良い関係を築き上げる手助けを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症による混乱時以外における電話利用や以前から利用されていた化粧品の訪問員さん来訪や行きつけの洋品店等にも買い物の付き添いを行っている。馴染みの人との面会は家族の協力で行われている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を考慮し利用者同士の関係を見守っている。喧嘩時はタイミングをみて仲介に入っている。孤立している方にはサポートにはいるよう心がけ、その方にとって最適な関係が築ける環境づくりを心がけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とされている家族には、引き続き家族会にサポートメンバーとして参加していただくなどの対応を行い、つきあいを継続できるような体制をとっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の性格、以前からの生活スタイルを考え、本人の希望や意向に沿えるようなケアプランを作成している。本人から伺えないときは、家族と話し合い決定している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込みの際に、生活歴やサービス利用状況を確認し、契約時には更に細かな情報収集をしアセスメントをしている。利用してからも、家族等から細かな情報提供を引き続き得ている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や状態は、日々の記録や申し送り等で全職員が把握し意見交換している。総合的な把握のうえ、その方にあったペースで生活できるよう支援している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望、主治医などの指示や助言を踏まえ介護計画を作成している。月1回の職員会議や毎日の申し送り時などに出た意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて職員会議で見直しを行っている。利用者の状態が大きな変化が見られた時は、再アセスメント、再計画を立て状態に適したケアを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	民生委員、警察、消防との関わりが少ない為より多くの機関を利用して支援していきたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	アステラスも利用していきたい。



	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望されている主治医がいる場合は、そちらを優先し家族と共に支援している。また、グループホームの主治医とは、こまめな情報交換を行い、必要に応じて回診を受けるなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ認知症専門、または、認知症に詳しい医師等と連絡、相談、受診をして適切な診断、治療を行えるように支援している。医師による勉強会を開催したり、食事をしながら職員の相談の場を設けてもらったりもしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置し、常に細かな健康管理や利用者、職員の相談、アドバイスなどスーパーバイズを受けている。地域の看護職とは、服薬の経過などを相談、医師に報告依頼等をお願いしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には、適宜情報交換や相談を家族を含め行っている。面会をして状態の把握等に努め、退院の際には事前調査に病院へ伺い看護師より情報を得ている。退院日時についても、病院や家族と連絡を取り合い決めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	定期カンファレンスで家族、医師、職員等で話し合いを行っている。終末期に近い方に関しては、こまめに話し合いを行い今後の方針を確認している。情報は職員間でも全員が共有できるようにしている。	○	12月より医療連携体制とする予定なので、更なる医療との連携を図っていきたい。看取り介護についての勉強も職員全体で行い、知識や考えを深めてサービスの質の向上に繋げていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や担当医との話し合いを踏まえ、支援に取り組んでいる。状況の変化に迅速に対応し、職員全体が対応していけるように努めている。	○	緊急時の対応や終末期について、年内中に家族、医師、職員で定期カンファレンスを開催予定。その際、事業所での「できること・できないこと」を明確にし、より話し合いを具体的に行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	事前に相手先とは、話し合いや情報提供をして いる。住み替えた場所へは、職員や利用者で面会 に行ったりしてダメージを防いでいる。なるべく 併設施設の利用を勧め、リロケーションダメージ を最大限に防ぐ提案なども行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	職員間でお互いの声掛けや対応状態をチェッ クし、プライバシーを尊重した対応を心がけるよ うに注意している。記録についても情報の保護には 気をつけている。	○	引き続きプライバシーの確保に徹底していき たい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	個々の認知症状により説明方法を工夫し、でき るだけ思いや希望を表出できるようにしている。 利用者が自己決定する場を多く取り入れ、一日の 過ごし方、入浴日、外出の参加等は個人の希望に 沿って行っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	共同生活を逸脱しない範囲で、できるだけ個々 のスタイルに合わせた支援を行っている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	希望に応じて、行きつけの理美容店に行ってい ただいている。希望の無い方には、出張美容店を 利用していただき、個々の希望など書き込んだ ファイルなどで情報共有し、その人らしい身だ しなみができるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1～2回程度、出前をとって職員と食事を楽しんだりしている。認知症の状態により、食事の準備や片付けを行ってもらっている。好みに応じ、メニューを変えたりもしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しては服薬の種類や既往歴、事業所の方針を踏まえ、個別に支援、対応している。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の残存能力を活かせるような、その方に合った方法、ペースで行っている。排泄パターン、尿量を記録し、習慣を活かした最適な排泄がされるよう支援している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人に希望を伺い、気分がのらないようであれば不衛生にならない範囲で入浴を中止することがある。曜日の指定は全く無いが、時間帯や順番については、職員が決めていることもある。	○ 希望があれば、夜間浴の対応も考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない範囲で自由に休息、昼寝などをしていただいている。	
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、散歩、買い物、テレビ鑑賞などで楽しんで生活できるよう支援している。本人のできることを役割として行えることで、張りのある生活が送れるよう支援している。	


	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力に応じてお金を預け、外出、買い物の際には、自由に使っていただけるようにしている。持っていることで安心感が得られ、使用されていない方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	最近では徘徊される方が増え、危険が多くなったが心配のない方には夕涼みなどをしていただいている。時々、朝のゴミ捨てに外へ出ていただいたり、希望時には家族の協力も得て、できるだけ戸外に散歩に出られるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望により、新しくできたデパートや演劇鑑賞などへの外出を支援している。また、家族とその本人との一緒の外出なども積極的に受け入れ、外出前に情報を提供したり、荷物を用意するなどして支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規則等なく自由にできるようになっている。電話の希望があった場合、本人のかける先や電話番号の正誤を確認した上で支援を行っている。手紙のやり取りは今までないが、以前は年賀状を出される方もおり、ポストへの投函も一緒に行ったりなどして支援していた。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設定せず、自由に来ていただいている。気軽に訪問できるよう、和んだ雰囲気作りに努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては他の部署と合同で勉強会などを行っており、しないケアに取り組んでいる。過去に安全の確保が難しくなった方について家族の希望もあり、医師などと協議を行い拘束をした事例がある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は常時開錠していたが最近は徘徊の多い方が増え、安全面、他の利用者への影響や人員状況を考え、やむを得ず施錠を行う回数が増えた。徘徊の心配のない方にはその都度開錠し、外で過ごせるような取り組みを行っている。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しつつ、常に所在の把握を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて対応している。注意の必要な物品については、他の利用者が居室へ入られてしまう場合もあるので注意観察している。		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	他部署と合同で事故防止委員会を設置している。また、勉強会にも参加し、知識を学び、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会などで知識を深めたり、急変時対応マニュアルがある。個々の急変時対応は全職員が周知しているが、定期的な訓練は行っていない。	○	救命講習、急変時の応急手当や初期対応を定期的に行っていききたい。
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。地域の協力については運営推進会議などを通じて働きかけを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>モニタリング、アセスメント時にリスクマネジメントし、ケアプランを作成している。ケアプランの説明の際にリスクについてお話ししたり、逆に家族からリスクについて求められたりし、お互いに対応策を常に話し合っている。</p>	
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルチェックは一日一～二回行って異変の発見に努めている。申し送り時などで、職員間で常に細かな報告、連絡をし情報共有している。体調の変化や異変時には必要に応じ、主治医、家族などへの迅速な対応を行っている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>主治医、看護師の指示のもと随時体調変化に合わせた薬の調整を行っている。副作用、用法、用量、目的については連絡帳なども使用し細かな情報共有している。服薬による症状の変化については常に話し合い状態観察を行っている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックを行い状態観察している。水分や食事量の確認を行い、運動も働きかけている。10時には乳製品のおやつがある。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>個々の力に合わせたケアを行い、清潔保持できる支援をしている。夜間は入れ歯洗浄をし、必要に応じて歯科受診も行っている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後に食事量のチェックをしている。必要量の確保ができない方へは、主治医と相談のもと補助食品などで栄養バランスが保てるよう支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症委員会や勉強会に参加している。他部署との取決めがあり、予防対策を実行している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は業者に依頼し、新鮮で安全なものを取り寄せている。また、カロリー計算や栄養バランスに配慮したメニューにもなっている。台所、調理用具、テーブルは常に消毒をし、衛生管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたりと明るい雰囲気作りを心掛けているが、まだ工夫が必要とも思われる。	○	親しみやすい雰囲気作りを模索していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場所は不快な音や光、匂いがないよう配慮し、食事の席は居心地よく過ごせるよう配置を考えている。掃除の時間には、窓を開け放ち自然換気をして季節を感じていただいたりしている。ホールには季節の花を飾ったりして、生活感のある空間を提供している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に大きなソファを設置しており、ホールには腰を下ろせる大きな畳がある。気の合う利用者同士でテレビを観たり、畳に腰を下ろしお独りの空間を保てたりとくつろぎやすい場所を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然豊かな山の麓に位置し、季節の移ろいを五感すべてで感じることができる。敷地内には小さな牧場があり、ミニチュアホースがのんびりと草を食べていたり、犬や猫がいたり池にはカモが泳いでいたりとする。池の周囲には東屋や散歩コースがあり、地域の人たちも気軽に利用されており誰もが驚くほど環境が素晴らしいのが特徴です。その素晴らしい環境の中で、人それぞれの過ごし方考え方を様々な角度から支援し、楽しみ・喜び・生きがいをみつけ、自らが生きたいと願う・・・そんな環境づくりや支援に努めています。